



いい人ばかりのいいクラブ、
このまま続いてほしいです。

澤山 豊会員

「Mでは著名ないなかった
を呼んで反響ありました」

「家族例会などいつもご参加
いただいております。ロータリー
にも理解ある奥様（澤山あ
さ様）にも加わっていただき、
いろいろお話を伺いました
と思います。澤山先生が
入会されたのは昭和55年
です。どなたの紹介だっ
たのですか。」

豊 中村秀先生、あの頃医師
会の副会長だったかな。

「奥様はその時ロータリーに
どんな印象お持ちでした。」

あさ お聞きしたら熊谷弘夫・
吉井政人・齊藤義寛・種田豊・
高島信治・下地晋先生等と
お医者さんが大勢いらして、
まあそれなら心配ないなと
思いました。

「先生、先輩のお医者さんが
大勢でやりにくかったのでは。」

豊 下つ端ですからただ大人
しく聞いているだけで（笑い）、
雰囲気も良かったですよ。

「奥様は端から見ていてどう
感じました。」

あさ そうですね。主人も私
も医者の世界しか知らない方
でしたので、企業出身の齊藤
崇さんのお父さんの友紀雄さ
ん、及川彦三郎さん、須賀昭
さんなどは整然ときちんとし
た方々で、ああやっぱり人の
上に立つ人というのは違うん
だなと思いました。

「先生が会長をなさったのが
平成3年この年創設20周年
でMとも重なりましたね。」

豊 30年も昔の話で大分忘れ
てしまいました。そう言え
ば記念に何か歌作りまし
たよ。

あさ 作詞を会員に公募して、
それを当時市立病院の安齋院
長が作曲するというもので、

豊 吉井先生のが決まったん
だ。もともと他には応募する
人いなかったからな（笑い）。

「今でも夜間例会で時たま合
唱する「室蘭北クラブのう
た」がそうですね。若い会
員はその存在すら知らない
訳ですから、消え去らない
よう継承していかなければ
なりませんね。」

豊 当時歌の練習しましたね。
Mにもぶつかった訳です
が、どんなMでしたか。」

豊 Mね。何だったか。
有名人を招聘しましたね。

あさ 当時テレビやラジオで
活躍していた「いなかっぺ
いさん」を講師に迎えてサ
ンルートでやったんですよ。
大勢の人が来てとても面白
かったこと覚えていますよ。

「一番の思い出は留学生を3ヶ月
ホームステイさせたことだす
ね。」

「先生うちのクラブのどんな
ところですか。」

豊 そうね、みんないんですよ。
昔から。

あさ 西尾さん、菅原悦子さ
ん始め皆さん本当によくし
ていただいて感謝してあり
ますよ。退会も考えている
のですがまだいいから、そ
んな声に押されて何とか
やっているんですよ。

「先生、そんなんですか。」

豊 いや、医者仲間も、古い
ロータリーの仲間もだんだ
んいなくなっちゃってますね。



さわやま ゆたか

昭和5年1月16日生
元澤山クリニック院長
昭和55年 入会
平成3年 会長
◎M・P・H・F
◎第2回米山功労者マルチプル

PHOTO Y. YAMAGUCHI

―奥さまはこれまで家族例会などあれば参加していたらいてクラブとの繋がりが深いのですが、これまで思い出と言えどどんなこと挙げられます。

あさ そうですね。いろんなことありましたし、またいろんな所へも行きましたが、一番思い出深いのは交換留学生をホームステイさせたことです。

―それはいつのことですか。

あさ あれは確か昭和58年オーストラリアのファイオナ・トムソンという18歳の女の子で、栄高校の2年生に編入入学しました。ロータリアンが交代で3ヶ月預かったんですけど、うちの娘は大学に行っていて家にいな時でまあ大変でした。

―留学生をどんな風に扱われたんですか。

あさ いやもう開放的で明るい娘。男のお友達を連れきたりしてもう心配でははらどきどきでした。でもね日本のことをこよなく愛する娘で逆に日本の良さを教えられましたね。



開業医を辞してから住まいはマンションへ。「雪かきなんてもいいのが何よりね(あさ)」「7階最上階からの眺めは市内を望める。陽射しの差す昼下がり夫婦穏やかなひと時を。」

「医の原点、困っている人がいる以上誰かがやらなくては」

―先生はもう製鐵記念病院の嘱託・参与を終えられ今はフリーの身ですが、長らく高砂町で「澤山クリニック」をなさってましたよね。開業などその辺の経緯をお聞かせください。

豊 北大卒業して富士製鐵病院に入りました。全国的に「人口透析」が導入された時期で私が専任担当になり、透析によって腎不全患者の改善が飛躍的で透析患者が急増しました。でも大半の人が働いているので日中受けられない。「夜間透析」の話になったのですが、会社の方は収支・労務面から認めない。

―それに対して、医師として先生どう向き合ってたんですか。

豊 これは放置できない。「医の原点」でないかと一大決心をして、夜間にも人工透析をするクリニックを昭和51年開業したんです。膨大な設備投資でしたよ。

―奥様もよく「承されましてね。」

あさ 設備、建物もう途方もない額の借財でもう茫然としていました。ただ主人が「困っている人」がたくさんいるんだから誰かがやらなくては、その意志を尊重するしかありませんでした。あの頃まだ車を持っている人も少なくマイクロバスで送迎していました。

―平成13年古巣の製鐵記念病院に移譲され「サテライト高砂」として人工透析は継承されたのですよね。

豊 私も製鐵記念病院の嘱託・参与となつて暫らく医療に従事していました。今はリタイアして悠々自適、サテライトクリニックも病院の方に統合されました。

現在、ウォーキングが健康法。天気によければ宮の森の体育館、野球場の周りを何周か。



―最近の生活や健康法などお聞かせください。

豊 できるだけ歩くようにしています。好きな晩酌は毎日続けますよ。(笑)

あさ お天気が悪くなければ二人して宮の森の体育館周辺をウォーキングします。

―最後にこれからのクラブに望むものあったら聞かせていただきたいのですが。

豊 うーん、そう言われても皆いい(人だ)から、今まで通りでいいですよ。

あさ 皆さんのお邪魔になつてないか心配ですよ。でも皆さん会えば心配なんかありません。良くしていただいで本当に感謝しております。

編集後記

“医は算術”の現在、夜間の人工透析を必要とする人たちのために開業に踏み切ったのは、“医は仁術”を地でいった証である。元々は大阪関西人、父親が保険会社の医師で小樽勤務だったのでそのまま北大医科に進んだ。北海道も室蘭もそんな縁からである。開業医時代は離れて遠くは行けず、今自由な身となって夫婦遠出を楽しんでいる。